

まもの係り

糸篇

一〇・新春号
発行：松岡屋

紬ってなに？

第2弾

やまがた

優しい自然の草木染めの糸で織りあげられた素朴な風合の紬は、どなたも気軽に着られ、昔ながらの綿・絹などの柄は流行がなく飽きずに着ていただけます。

今回は北国の代表的な紬をご紹介します。



訪問できなくて、すみません!!



呉服屋は訪問営業が多いようですが、突然来られても困られるのでは...?そこで松岡屋はフリーダイヤルをご用意しております。いつでもお電話ください。訪問させていただきます。

0120-63-0618

優しい自然の草木染めの糸で織りあげられた素朴な風合の紬は、どなたも気軽に着られ、昔ながらの綿・絹などの柄は流行がなく飽きずに着ていただけます。

米沢紬 (よねざわつむぎ)

米沢藩主上杉鷹山によって商品化されたと言われている米沢紬は、その種類も技法も多岐にわたります。米沢紬の代表格の紅花紬、琉球織物の技法を取り入れた米琉紬、長井紬、白鷹紬、また、米沢の置賜しらかづむぎ地方で織られる紬を置賜紬おいたまつむぎと言うこともあります。

紅花紬 (べにばなつむぎ)

最上地方の紅花(アザミのような花)で真綿を染め織り上げた紅花紬。一般には黄色味を帯びた色ですが、その染料で何度も染めていくうちに紅になります。化学染料には出せない品のいい朱色、ピンク、黄色の独特の味わいあるものです。

置賜紬 (おいたまつむぎ)

始まりは8世紀初めに遡るとも言われ、米沢藩主、上杉鷹山の藩政再建築の一つとして発展したようです。素朴で伝統的な技法を用いた白鷹板締小緋、米琉板締小緋、緯縮緋、併用緋及び紅花等で染色する草木染紬等があります。

塩沢紬 (しおざわつむぎ)

塩沢紬は、本塩沢と並んで塩沢織物を代表する紬であり、麻織物「越後上布」の技術を絹織物に應用して誕生した織物で、原料に生糸、玉糸、真綿の手紡糸を使い、特有の柔らかさと細かなシボと小緋の柄が特徴です。

小千谷紬 (おぢやちぢみ)

手績みの糸を手括りして染めた緋糸を、居坐機いざりきで織ったあと、湯もみ、足踏みでシボを取り、雪晒し(※)を行うという伝統的な技法で織られています。この技術が重要無形文化財に指定されています。

(※)雪晒し...早春に雪の上で蒸発した水分に強い紫外線が当たることでオゾンが発生し漂白する事。

能登上布 (のとしょうふ)

石川県の能登、羽咋地方で織られる夏の麻織物。麻糸を用いた手織りの織物で、さらりとした肌触りと清涼感が特徴です。越後上布、宮古上布ともに3大上布の一つです。紺地または白地の緋が多いのが特徴です。1960年に石川県指定無形文化財に指定されました。

十日町紬 (とおかまちつむぎ)

伝統的工芸品として十日町緋ともいいます。緋糸の染め方に特徴があり、「つき棒」という道具で染料をこすり付けて緋糸を染め、木綿糸で括ります。手括りの加減でわずかなかすれを生み、織細で緻密な柄が特徴です。

越後上布 (えちごじょうふ)

1200年も前から雪深い魚沼の冬の副業として織られ、経糸と緯糸の合わせ具合の細かさが越後上布の特徴で、蒸し暑い日本の夏を快適にしてくれる最高級の夏織物として高い評価を得ています。重要無形文化財に指定されています。

いしがわ

牛首紬 (うしくびつむぎ)

石川県白山市で織られている牛首紬の特徴は、座繰器で挽いた空気を多く含んだ柔らかい糸を手織りで織り上げる打ち込みのしっかりした張りのある地風と、そこから生まれる弾力性、伸縮性によるシワに対する抵抗力、光沢などが挙げられます。牛首紬は、釘にひっかけても反対に釘が抜けるほど丈夫なために、別名「釘抜紬」とも呼ばれています。

私の家のつむぎ

私事で恐縮ですが、田舎の蔵の中に明治生まれの祖母が織った反物が眠っていました。

茅葺き家の屋根裏で、お蚕さんを育て、繭玉から糸を引き、外仕事が出来ない冬に織っていたそうです。

ずっと目を閉じると優しく、た祖母の笑顔が思い出されます。今は私の大切な宝物です。

戸田(スタッフ)

紬はもともと庶民の江戸野良着だったのを、時代が経つにつれて、美しいに魅了され、人気を博したといわれています。